

## 喫茶・軽食 葦 (あし)



札幌市医師会  
新札幌豊和会病院

明田 克之

昨年（2016年）の夏、ある喫茶店が営業を終えました。その名は「喫茶・軽食 葦」。ピンと来るあなたは札幌医大にかかわる人でしょうか？ 大学から徒歩30秒の雑居ビルの地下にその店はありました。築50年超のビルが取り壊されることになり、惜しまれつつ閉店となりました。

初めて「葦」に足を踏み入れた（！）のは1988年に私が入学したときです。当時から閉店までマスターと奥さんの二人で店を切り盛りしていました。コーヒーの香りとタバコの煙が渦巻く地下空間にあるため、ちょっと入りづらい雰囲気がありましたが、先輩に連れられて訪れているうちに、あつという間に常連客の仲間入りです。昼休みや部活の帰りはもちろん、たまには授業を抜け出して「ちょっと葦行かない？」と友達を誘って。メニューはコーヒーと軽食で、カレーやナポリタンなどの定番メニューのほかに「ミートピラフ」と「焼肉スパゲティー」というオリジナルメニューがありました。「ミートピラフ」はバターライスの上にミートソースをかけてできあがりというシンプルな料理です。学生時代に再現を試みましたが、どうしても「葦」の味にはならず、やはりあの地下空間の雰囲気というスパイスが必要なようです。「焼肉スパゲティー」は和風の味付けの牛肉とスパゲティーを絡めて炒めるのですが、その絶妙なしょうゆ味（？）はほかでは味わえません。姉妹メニューに「焼肉丼」がありますが、これは「牛丼」のようにつゆダクではなく、見た目には「豚丼」に近いのですが、卵の黄身が乗っているところは「牛丼」似です。

昨年6月末で閉店するとの情報はSNS上を駆け巡りました。廃線が決まると慌てて駆けつける「乗り鉄」や「撮り鉄」のようで少し心苦しかったのですが、マスターご夫妻に会って懐かしのメニューに舌鼓を打つのも悪くないと考え、仕事帰りに寄りました。「美味しんぼ」や「三国志」などの漫画本のラインナップは学生時代と同じでした。内装は明るくなり、テレビゲームは撤去されていました。カウンター席に腰かけ漫画を読みながら「ミートピラフ」ができあがるのを待ちます。ピラフはチャーハンと違い、あらかじめスープで炊いてジャーに入れていることが分かりました。マスターの手際の良いフライパンさばきでピラフが温められ、上からミートソースをたっぷりかけたら完成です。ほかほかの「ミートピラフ」の香りは学生時代のあの味と同じです。

後日、もう一つのオリジナルメニューである「焼肉スパゲティー」を食べに再訪しました。偶然同期の友人も来店しており、しばしマスターご夫妻を交えた昔話に花が咲きました。卒業後に音信の途絶えた先輩後輩の進路まで事細かに把握していたご夫妻の情報収集力に、驚愕した次第です。また開業以来ほぼ年中無休で営業していたことを知り、奥さんの少し曲がった腰を目にしてリタイア後のご無事を祈りました。「葦」の開店は私が生まれた1969年の数年前ですから、ビルの誕生とともに50年以上営業したことになります。くしくも私は今年5回目の「酉年」を迎えます。医師になってから24年目、今がアブラの乗り切った時なのか、下り坂に差し掛かっているのか分かりませんが、毎日こつこつやっていると決意を新たにするのでした。「葦」のように閉店まであと2回の「酉年」を迎えられるのかは分かりませんが。



在りし日の「葦」の看板